

国宝 松本城

松本城
YouTube

MATSUMOTOJO_OFFICE
松本城
Instagram

松本城を世界遺産に

松本市
松本観光コンベンション協会
松本城管理課

松本城 公式HP

便利な電子チケットがご購入いただけるほか、
混雑時には天守入場待ち時間をご案内しています。



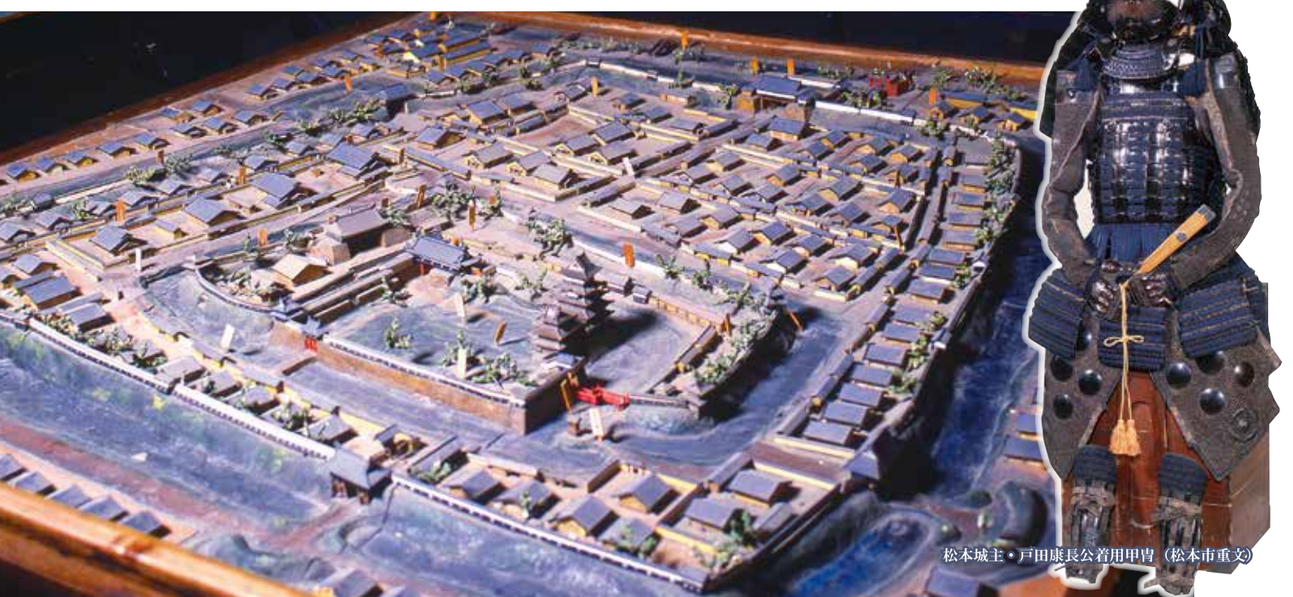
所在地：長野県松本市
城の形態：輪郭式・梯郭式の平城
天守築城年：安土桃山時代／文禄２～３年（1593～4）
天守築城者：石川数正・康長
天守の形態：五重六階　望楼型　連結複合式











松本城主・戸田康長公着用甲冑（松本市重文）

三重の水堀で囲む縄張り

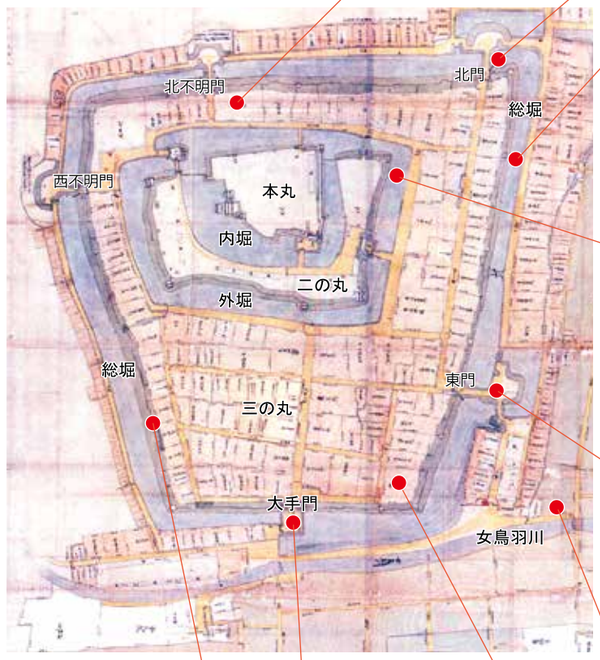
松本城は、天守だけでなく総堀に囲まれた範囲までを含みます。
総堀の内側には三の丸、二の丸、本丸がありました。

松本城は、山城と平山城に比べ防御性が低い平城を守るための様々な防御設備が見られます。

縄張りは「本丸」を中心に「二の丸」、「三の丸」が周りを囲む【輪郭（りんかく）式＋梯郭（ていかく）式】。

天守から南東方向に本丸の正門である黒門枡形が造られ、さらに二の丸への出入り口である太鼓門枡形が防御を固めます。

外堀と総掘の間が三の丸。女鳥羽川大手橋北詰に枡形虎口の大手口が開かれ、東口、北口、北不明口、西不明口が外側に水堀を巡らす区画をともなう馬出の、計５カ所の口が開かれていました。総堀は現在、松本市役所東側から北におよそ 300m の水堀を残しています。





松本神社

城主戸田氏の祖神等５柱を祀り天保２年（1831）に五社と称しました。昭和 28 年（1953）にさらに城の鎮守社を合祀し松本神社と改称し現在に至ります。



北門の井戸

明治維新後、総堀が埋め立てられた後から湧き出した井戸。東側に残る総堀に続いており、馬出の堀の造形が現在もその形をとどめ、遺構が体現できる場所です。



総堀

三の丸（武家屋敷地）と町屋を区切るように、三の丸全体が水堀（総堀）で囲まれていました。現在わずかに東側に一部が残ります。



外堀

二の丸は、四方を水堀によって囲い込まれていました。二の丸の四隅には二重櫓が配され防御を固めていました。二の丸東北櫓台は土塁の上に設けられています。



松本城最大の馬出

三の丸東虎口址、東門があった場所です。東門は通用門として参勤交代の時や町人たちが城に入る際も使われました。最大規模の馬出で防御していました。



大手門

松本城の表門です。町民や農民は通行できませんでした。今も枡形の形が残り、道路がかぎ型になっています。枡形と総堀の一部が枡形広場として整備されています。



西総堀土塁公園

大正８～10 年（1919～21）に西総堀は埋め立てられましたが、ここだけ奇跡的にそのままの状態で土塁が残されていました。城の一番外側の防御施設であり郭内と郭外を明確に分けていたところです。



鎮神社（しずめ）

石川数正が女鳥羽川の氾濫から城を守る鎮守として祭祀したと伝わります。



辰巳御殿跡

幕末に、城主・戸田光庸の隠居後の住居として建てられた辰巳御殿があった所。現在は、辰巳の庭公園として整備されています。

本丸と二の丸

主郭部の城門は枡形門を採用

天守築造から明治維新まで約 270 年間。城主として松本を治めた大名は 6 家 23 人。
家門・譜代の大名が相次いで入城。将軍家康ゆかりの人々が、要衝の地松本を固めました。

若宮八幡跡

島立右近貞永が永正元年（1504）井川から深志の地に移し深志城としたといわれています。永正 14 年（1517）貞永が亡くなり、その嫡子島立七蔵が父をここに祀り、深志城の鎮守としたと伝えられています。



埋門（うずみ）

石垣を通路の幅だけ切通して門を設けたもので、石垣に埋もれて見えることからこの名があります。現在の埋橋※のあたりには、戸田氏の時代には堀の中に塀が築かれていて（足駄塀）、内堀と外堀を仕切っていました。
※埋橋は昭和 30 年に造られました。現在は渡ることができません。



駒つなぎの桜

松本城天守が竣工した頃、江戸から加藤清正公が城見舞（城の完成祝い）に立ち寄ったと言われています。その際、城主石川康長が清正公に贈った馬をつないだ桜として語りつがれています。



小笠原牡丹

小笠原長時が武田信玄に追われて松本を去る時、山辺の兎川寺の住職に託した牡丹と伝えられ、檀家の久根下家で「殿様の白牡丹」として大事に守られてきたといういわれをもちます。



本丸御殿跡

主要建物は 5 棟、部屋数は 60 余り、建坪は 830 坪。天守築城と同時に建設されたと推定されています。藩の正政庁で、城主の居館でしたが、享保 12 年（1727）に焼失、その後再建されることはなく、政庁は二の丸御殿に移りました。





戸田家の灯篭



二の丸裏御門橋

二の丸東部の北端に架かる橋で、その名の通り二の丸御殿の裏門から三の丸に架かっています。平成 2 年（1990）に復元されました。



二の丸御殿跡

天守に続いて建てられたと考えられています。敷地約 1,900 坪、建坪約 600 坪、部屋数は約 50 室。当初は副政庁として、本丸御殿焼失後は正政庁として機能しました。明治になり御殿は筑摩県庁として使われていましたが、同 9 年（1876）に全焼しました。



市川量造と小林有也のレリーフ

向かって左が市川量造、右が小林有也。廃藩置県後、城内で博覧会を開き競売に付された天守の買い戻しに尽力したという市川量造。松本天守閣保存会を結成し、天守の修理工事を行うなど保存に尽力した小林有也。明治以降、松本城の保存に功績のあった 2 人です。



太鼓門枡形

明治初期に破却されましたが、平成 4 年に石垣を復元、11 年に門が復元されました。樹齢 400 年の檜、梁は 140 年の松を使用しています。門の東側床には石落がついています。北側門台上には太鼓楼がありました。櫓門下の巨大な玄蕃石（高さ約 4 m、推定重量約 22.5t）は必見。



図 色の部分が有料スペースです。

国宝松本城の観覧料

松本城 公式HP

観覧料・アクセス等は、松本城ホームページをご覧ください。
松本城ホームページ等から時間指定可能な入場券をお求めいただけます。待ち時間の節約にぜひご利用ください。

開場日：年末（12/29 ～ 31）を除き無休

開場時間：通常／ 8:30 ～ 17:00（最終入場は16：30まで）
ゴールデンウイーク期間と夏季期間／ 8:00 ～ 18:00（最終入場は 17:30 まで）
正月三が日／ 10:00 ～ 15:30（最終入場は 15:00 まで）



黒門（二の門）

内堀を渡ったところにある門で高麗門です。平成元年、この門と袖塀が造られ、枡形が復元されました。この袖塀には狭間が切られ、対岸の敵に備えて攻撃できるようになっています。これより内は有料スペースです。



黒門（一の門）

本丸に入る重要な入り口。本丸御殿に通じる格調高い正式な門で、昭和 35 年に復興されました。屋根を見上げると歴代城主の家紋の付いた軒丸瓦が見られます。天守の昭和の大修理の際、天守からおろした瓦の一部を、黒門に再利用しました。



◆松本城天守内の平均観覧所要時間は 45 分～ 60 分です。
◆天守内は、階段の利用のみです。また、狭く急な階段が続きますのでご注意ください。（階段の数：140 段、最大斜度：約 61 度）
◆天守内は、土足厳禁です。（入り口で下足袋を配布します）
◆入り口は、黒門からのみです。（埋門は閉鎖しています）

◎松本城管理課　390-0873 松本市丸の内 4 番 1 号　TEL0263-32-2902 fax0263-32-2904

天守群の意匠と内部

戦国末期の戦いのための天 守と、平和な時代の優雅な櫓とにより構成されています。
現存する天守 12 城のうち、 唯一の平城で、五重六階の天守としては日本最古です。

【※乾小天守は非公開です。】



最も急な階段 （天守４階）

４階の床と天井の間は４ｍ強。５階につながる階段は、勾配が 61 度と松本城では最も急で、１段の高さも最大 39.5㎝あります。ご注意を！



御座所 （天守４階）

城主が天守に入ったときはここに座を構えたと考えられています。ただし、接客場所ではありません。戦時に城主がここに籠る場合は、戦闘の最終局面を迎えた時です。



（天守３階）二重目の屋根の下に隠れた階

隠し階、暗闇重などと呼ばれています。普段は倉庫、有事には武者溜りとして使われたと考えられます。柱には手斧削りによる貝殻状の「はつり紋」が美しく浮かび上がります。



（天守２階）松本城鉄砲蔵

火縄銃を主とした「松本城鉄砲蔵」の展示があります。松本市出身の故赤羽通重・か代子夫妻が寄贈した 141 挺の火縄銃と兵装品のうち一部を展示しています。



（天守１階）武者走り

写真左側の床よりも低い位置にある武者走り。壁が緩やかに内側にカーブしています。一階は食糧や武器・弾薬の保管場所だったと考えられています。



花頭窓と武者窓 （辰巳附櫓）

１階は武者窓、２階は花頭窓。泰平の世になって増設された櫓なので、石落もありません。この櫓は月見櫓を天守に付設するための連結の役割をもっています。



（月見櫓）武備のない櫓、舞良戸（まいらど）

徳川家光の上洛の帰り道、善光寺参詣の途中、松本に寄るという内意を受け城主松平直政が、将軍歓待のため急遽寛永 10 年（1633）ころから普請にかかったと伝えられます。三方に朱塗りの回縁が巡らされています。





二十六 夜神、桔木（はねぎ）構造 （天守６階）

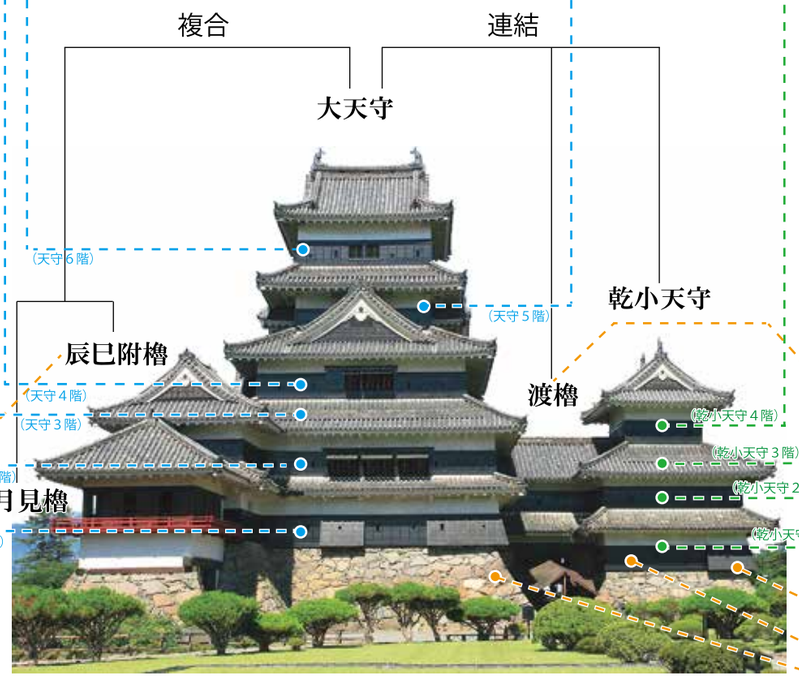
元和３年（ 1617）松本に入封した戸田氏が祀ったとされ、盛んだった月待信仰が持ち込まれたものと解さ。屋根裏を見上げると太い梁が井桁に組まれてらに、垂木の下に放射状に木材が配置されてい瓦屋根の軒先が下がらないように支えるため、を使った装置です。乾小天守４階も同じ構造。

（天守５階）作戦 会議室

東西に千鳥破風、南北に唐破風が取り付けには破風入り込みの間があり、武者窓から子を見ることができます。戦いのときにはが作戦会議を行う場所であったと考えられ



られ、室内全方向の様、重臣たちています。



松本城天守群は、大天守・乾小天守・渡櫓・辰巳附櫓・月見櫓の五棟で形成されています。大天守と乾小天守を渡櫓によって連結し、辰巳附櫓と月見櫓が複合された連結複合式の天守です。

大天守と乾小天守、その両者をつなぐ渡櫓は、豊臣秀吉の家臣、石川数正・康長父子により文禄 2 ～ 3 年（1593 ～ 4）戦国時代末期に築造されたと考えられます。これら三棟は、江戸の家康を監視する城として、甲府城・高島城・上田城・小諸城・沼田城と共に秀吉側の城主が配置された江戸包囲網の一つの城と言われています。

辰巳附櫓と月見櫓は、江戸時代初期の平和になった時代に松平直政によって建てられ、戦国期と江戸期という違う時代の天守・櫓が複合された天守群は国内唯一で、松本城の大きな特徴の一つです。



花頭（かとう）窓 （乾４階）

通常は「火灯窓」ですが、火を嫌うことからこのように書きます。北と西の２か所にあります。中国から鎌倉時代に伝えれた仏教建築の様式で、天守建築では格式の高い窓とされています。辰巳附櫓２階の南北にもつけられています。



真っ暗な階 （乾３階）

乾小天守二重目の屋根がこの階の周りを巡っているため、窓が取れません。大天守３階と同じ構造です。大天守３階は、南に千鳥破風を設け、この武者窓から明かりを採っていますが、乾小天守には明り取りがないので、真の闇の間です。



水切の穴 （乾２階）

武者窓の中央に穴が開いています。これは雨がふきつけた場合、雨水が敷居を伝わってこの穴に流れ込み外に排出される仕組みです。



丸太柱と角柱、出桁（だしげた）構造の腕木 （乾１階）

角柱と丸太柱が使われています。中央右にある管柱は創建当時の棒の丸太柱です。初重の屋根の垂木を受ける出桁を支えるため、太い腕木が天井隅に突き出ています。



天守入り口の階段 （渡櫓）

渡櫓は、二階建て構造。がんぎ（石の階段）を上がれば１階。江戸時代は石だけの階段でした。



石落（いしおとし）

鉄砲で石垣を登る敵兵を攻撃して天守を守る装置です。 渡櫓・乾小天守・大天守各一階に合計 11 カ所の石落がそなえられています。



狭間（さま）

壁に直接開けられた穴で、長方形が矢狭間、正方形が鉄砲狭間。天守・乾小天守・渡櫓・辰巳附櫓に合計で矢狭間が 60 カ所、鉄砲狭間が 55 カ所備えられています。



野面（のづら）積み 算木（さんぎ）積み

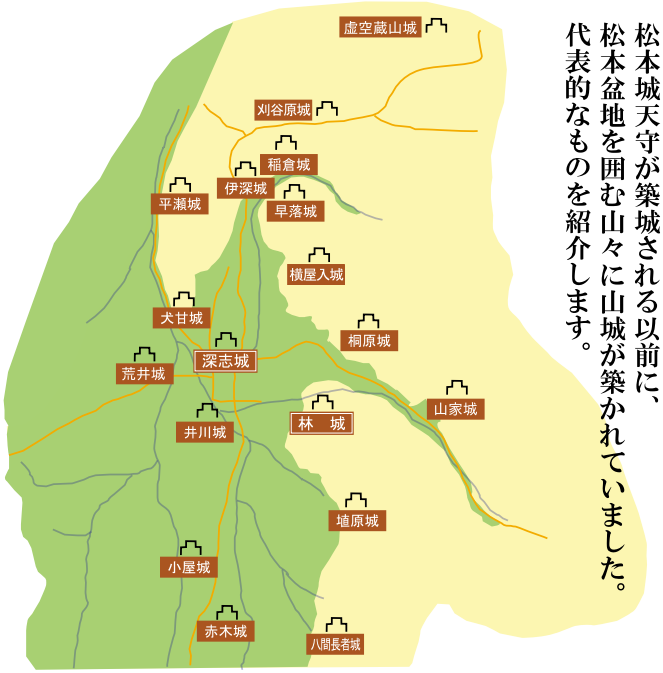
天守・乾小天守・渡櫓の石垣は修理を施していますが、400 年以上前に積まれたままで積み替えは行われていません。天守台の石垣は野面積み（乱積）で未加工の自然石を使用した石垣です。傾斜は緩いです。
天守台四隅は算木積みとなっています。石の長辺と短辺を交互に石を積み上げ、角を整えています。

主な城主と出来事

時代	城主	西暦	和暦	出来事
室町	島立貞永	1504	永正1	小笠原氏支族の島立貞永が深志城を築いたといわれる。
安土桃山	武田晴信	1550	天文19	晴信が深志城を落とし、北信濃制覇の拠点とする。
	木曾義昌	1582	天正10	織田軍侵攻で武田氏は深志城から撤退。木曽義昌が支配する。
	小笠原貞慶	〃	〃	本能寺の変後、信玄に追われた小笠原長時の三男貞慶が入城。松本城と改名。
江戸	石川数正	1590	天正18	小田原攻めの論功行賞により、石川数正が入封。
		1592	文禄1	数正・康長親子、文禄の役に出陣。数正没。
	石川康長	1593	文禄2	康長は松本に戻り、天守築城に着手。翌年完成と推定される。
		1600	慶長5	関ケ原合戦で康長は東軍。上田城攻めに参加。
	小笠原秀政	1613	慶長18	貞慶の長男秀政、信濃飯田より入封。
	小笠原忠政	1615	元和1	秀政・忠脩親子、大坂夏の陣で戦死。次男忠政（真）が家督を継ぐ。後、播磨明石、豊前小倉へ転封。
	戸田康長	1617	元和3	上野高崎より入封。
	松平直政	1633	寛永10	越前大野より入封。
		1634	寛永11	この頃、辰巳附櫓と月見櫓を増築。
	堀田正盛	1638	寛永15	徳川家光の老中正盛、武蔵川越より入封。
	水野忠清	1642	寛永19	水野氏は家康生母の実家筋。三河吉田より入封。
	水野忠直	1686	貞享3	加助騒動（大規模な一揆）起こる。
	水野忠恒	1725	享保10	忠恒、江戸城での刃傷事件で改易。一時幕領。
	戸田光慈	1726	享保11	戸田康長の子孫光慈、志摩鳥羽より入封。
		1727	享保12	本丸御殿炎上。以後、二の丸御殿を政庁とする。
明治	戸田光則	1869	明治2	版籍奉還し、光則は松本藩知事となる。
		1872	明治5	天守・櫓など払下げ。天守は市川量造らの尽力で破却を免れる。二の丸御殿は筑摩県庁舎に。
大正		1903	明治36	「松本天守閣保存会」が天守の修理を開始。
		1913	大正2	天守の修理完了。
昭和		1930	昭和5	本丸と二の丸の一部が国史跡に。のち総堀の一部も追加。
		1936	昭和11	天守・小天守等5棟が旧国宝に指定。
		1952	昭和27	文化財保護法により天守5棟が国宝に指定。
		1960	昭和35	黒門枡形一の門（櫓門）を復興。
平成		1989	平成元	黒門枡形二の門（高麗門）と袖塀を復元。
		1999	平成11	太鼓門枡形、一の門（櫓門）二の門（高麗門）復元。
		2007	平成19	土井尻地区にある西総堀の土塁跡が、国の史跡に追加指定。
		2010	平成22	「史跡松本城西総堀土塁公園」完成。

◆松本城周辺の山城など

松本城天守が築城される以前に、松本盆地を囲む山々に山城が築かれていました。代表的なものを紹介します。



◆林城（国史跡）

信濃守護・小笠原氏の本城。平地にあった井川城からこの山城を造り移りました。以後、ここを本拠に筑摩・安曇・伊那地方に勢力を伸ばします。規模は大きく、山頂には野面積みの石垣や土塁・空堀の一部が残されています。天文 19 年（1550）に武田晴信に攻められ、小笠原長時はここを放棄し、信州から撤退しました。

◆深志城

現松本城のあたりには深志城があり、これが現在の城の前身であるといわれています。深志城についてははっきりしない部分が多く、松本城築城にどのように引き継がれたかはわかっていません。

◆桐原城・山家城

寛正年間（1460 ～ 66）に、土地の豪族桐原真智が築いて、代々居城にした山城。虎口・石塁・空堀に往時の名残をとどめます。山家城は山家氏の居城で 2.5m の高い石積みを見ることができます。

◆埴原城

中山地区にあり、大規模な山城ですが、城主関係は不明です。

◆伊深城

後庁氏の居城。室町中期から戦国時代にかけての築城と思われますが、保元年間（1156 ～ 59）に岡田冠者親義が築城との伝承も。

◆虚空蔵山城

会田氏の居城。虚空蔵山中に多くの石積みを残し、戦国末期には北の上杉氏と深志に入った小笠原氏との接点になったところです。

◆平瀬城

平瀬氏の居城。武田氏に追われた小笠原氏が勢力の回復を図ってここに籠り、反撃を試みました。

◆犬甘城

犬甘氏の居城。ここは南北朝時代から砦がありました。市民から城山と呼ばれ桜の名所として親しまれています。

◆井川城（国史跡）

小笠原氏が信濃に入り、松本に定着した時以来、林城に移るまで居館があった場所です。ここは山城ではありません。

松本観光コンベンション協会　0263-34-3295
●〒390-0874 松本市大手 3-8-13 松本市役所大手事務所 1F
●e-mail　yokoso@matsumoto-tca.or.jp

松本の最新情報を発信しています。
SNSリンク一覧

〈2024.12-50,000〉